

## 1. 口腔保健における健康モデルの転換

	医療モデル	→	生活モデル
目的	う蝕・歯周疾患の治療		QOLの向上
目標	健康 (う蝕・歯周疾患の治療と予防)		快適な生活
主たるターゲット	歯科疾患 (生理的に正常な状態の維持)		生活の困りごとになっている 歯科的問題
主たる場	診療所・病院		家庭・地域・職場
チーム	歯科医師・歯科衛生士 (命令と指導)		多種(医療・地域住民・行政) (協力)
対象の捉え方	医学モデル (病因→疾患)		ヘルスプロモーションモデル (困りごと→QOLの低下)

参考文献: 広井良典 ケアを問い直す 1997年

## 2. 口腔健康支援の目的

\* 「口腔の健康を通じた一人ひとりの快適な暮らしや幸せな人生」

## 3. 歯科衛生過程とは（図示しましょう！） 予 P63、よくわかる P13

## 4. 健康（保健）行動理論（それぞれについてまとめる） 予 P35～

①健康信念モデル

②社会的認知理論（自己効力感）

③プリシード・プロシードモデル（ミドリモデル）

④変化のステージモデル（段階的変化モデル）

⑤ストレスとコーピング

⑥歯科衛生ヒューマンニーズ概念モデル

5. マズローの欲求階層説（人間の欲求）理論（図示しましょう！） よくわかる P17

6. 歯科衛生ヒューマンニーズ概念モデル

